

研究課題名：卵巣がん・卵管癌・腹膜癌に対する補助化学療法後の維持療法について

1. 研究の対象

2021年から2023年までの間に、当院で治療をした卵巣癌・卵管癌・腹膜癌の患者様で維持療法をした方

2. 研究目的・方法

卵巣がん・卵管癌・腹膜癌では3期以上の進行がんで見つかる症例が全体の半数近くもあります。術後、補助化学療法をした後に、ベバシズマブという分子標的薬による維持療法をすることで、予後が改善することが報告され、2013年以降はベバシズマブによる維持療法がおこなわれています。そして近年卵巣がんの症例で遺伝子変異がある場合には、細胞の増殖に必要なDNAの修復を妨げることで細胞死を誘導し抗腫瘍効果をあらわすPARP (poly ADP-ribose polymerase) 阻害薬が有効であることが報告され、この薬も維持療法として保険で使用できるようになりました。当院でも2021年から使用を開始しています。今回は卵巣癌・卵管癌・腹膜癌の患者様で維持療法をした方を対象に、治療内容や副作用、予後などについて検討して有効な治療かどうかを検討します。

研究期間：倫理審査委員会承認日 ～ 2024年 12月 31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテに記載されている情報：治療歴、採血結果、画像評価等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

当院研究責任者：

新潟県立がんセンター新潟病院 (婦人科)

当院研究責任者：(氏名 西川伸道)

連絡先：新潟市中央区川岸町2丁目15番地3

TEL：025-266-5111 (大代表)